

この1年を振り返って(造船業界を巡る動き)

社団法人 日本造船工業会 (2010.12.21)

新造船受注量回復の兆し

- ・リーマンショックで激減した2009年に比べ、韓国・中国の受注量が大幅に増加
- ・日本の受注は年前半好調であったものの、夏以降の急激な円高で後半は伸び悩み

世界新造船竣工量、過去最高の1億総トン規模に達する見込み

- ・中国が韓国を抜き、竣工量で世界のトップへ浮上
- ・日本の竣工量は2000万総トンに迫り、史上最高を記録する見込み

史上初の年平均 1ドル = 80円台となる円高

- ・夏以降の円高進行により造船・海運への影響大
- ・造船ではとりわけ新規受注の停滞が大きな問題

造船用鋼材価格上昇

- ・10年上期、鋼材価格値上げ

第19回 JECKU 造船首脳会議が中国で開催される(10月)

- ・造船業界として、品質や技術の向上を通じて世界的な環境保護の取り組みに貢献に合意

トライパタイト会議(船主・船級・造船)を東京で開催(10月)

- ・GHG(温室効果ガス)、GBS(グローバルの新造船構造基準)、塗装問題等、3者に共通する技術課題につき意見交換し、相互理解の促進に貢献

第4回アジア造船技術フォーラム(ASEF)を京都で開催(11月)

- ・日本、中国、韓国、インドネシア、フィリピン等8ヶ国から参加、アジアの造船業に影響を及ぼす問題点について認識を共有
- ・IMO(国際海事機関)におけるNGO取得のためのWG、シップリサイクル及びバラストタンク塗装基準に関するCG(Colson Group)の設置を決定

燃費の改善、温室効果ガスの削減を図った燃費削減船の開発が進む

- ・CO2排出削減30%を目指して研究開発が進み、各社独自技術を生かした燃費削減船の概念設計を発表

人材確保・育成対策を着実に推進

技術者には「造船技術者社会人教育」で、技能者には「造船技能研修センター」で、教育・研修を実施

- ・「造船技術者社会人教育」:本年度は313名が受講、受講生は延べ1947人
- ・「技能研修」:全国6地域の技能研修センターで開講、受講生は延べ2679人
- 「造船業界合同就職フォーラム」開催される(12月)
- ・本会主催の合同就職説明会を東京・大阪・福岡で開催(参加者約750人)

国際協力銀行(JBIC)機能強化を要望

途上国6カ国の先進国入りを2年間延期実現(9月)

パッケージ型インフラ海外展開関係大臣会合にて、JBICの機能強化を図るため、(株)日本政策金融公庫法の改正法案を、次期通常国会に提出することを決定。(12月)

以上